

【的中問題！】一部ご紹介致します！

大原：直前対策模擬試験②－第19問

システム開発におけるオブジェクト指向プログラミングの特徴として、以下の3つの用語 a ～ c と、その説明①～③の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問19へマークせよ。

- a カプセル化
- b インヘリタンス
- c インスタンス

- ① クラスを基にした実際の値としてのデータのこと。
- ② オブジェクト内部のデータを隠蔽したり(データ隠蔽)、オブジェクトの振る舞いを隠蔽したり、オブジェクトの実際の型を隠蔽したりすること。
- ③ 既に定義されているクラスをもとに、拡張や変更を加えた新しいクラスを定義すること。

〔解答群〕

- | | | | |
|---|-------|-------|-------|
| ア | a : ① | b : ② | c : ③ |
| イ | a : ② | b : ③ | c : ① |
| ウ | a : ② | b : ① | c : ③ |
| エ | a : ③ | b : ① | c : ② |
| オ | a : ③ | b : ② | c : ① |

本試験：第3問

オブジェクト指向プログラミングに関する記述として、最も適切なものはどれか。

- a 多相性は、プログラムの実行時に変数に値が代入されると、その値に基づいてデータの型が自動的に決定される仕組みである。
- b インスタンス化は、オブジェクトの属性と機能を外部から隠蔽する仕組みである。
- c 継承は、下位クラスが上位クラスの属性と機能を引き継ぐ仕組みである。
- d カプセル化は、上位クラスで定義された機能を下位クラスの役割に応じて再定義する仕組みである。

〔解答群〕

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| ア | a : 正 | b : 正 | c : 誤 | d : 誤 |
| イ | a : 正 | b : 誤 | c : 正 | d : 正 |
| ウ | a : 正 | b : 誤 | c : 正 | d : 誤 |
| エ | a : 誤 | b : 正 | c : 誤 | d : 正 |
| オ | a : 誤 | b : 誤 | c : 正 | d : 誤 |

大原：公開模擬試験－第16問

ある企業では、新規事業のための情報システムを新たに開発することにした。そのシステムの開発規模の見積もりに関する記述として、最も適切な組み合わせを下記の解答群から選べ。解答は問16へマークせよ。

- a ファンクションポイント法は、外部仕様から、そのシステムの外部入力、外部出力、内部論理ファイル、外部インタフェースファイル、外部照会の5項目に該当する要素の数を求め、処理の複雑度で重み付けして処理を見積もる。
- b WBS法は、WBSにより作業を洗い出し、過去の経験から求めた作業ごとの工数を積み上げて規模を見積もる。
- c CoBRA法は、ソフトウェアの開発作業を標準作業に分解し、標準作業ごとにあらかじめ決められた標準工数を割り当て、それらを合計して規模を見積もる。
- d 標準タスク法は、プログラム言語と開発担当者のスキルから経験的に求めた標準的な生産性と、必要とされる手続きの個数とを乗じて規模を見積もる。
- e LOC法は、画面や帳票の数をもとに開発規模を計算するため、仕様書が完成する前の要件定義段階での見積もりは難しい。

〔解答群〕

- | | |
|---|-------|
| ア | a と b |
| イ | a と e |
| ウ | b と c |
| エ | c と d |
| オ | d と e |

本試験：第16問

システム開発やソフトウェア開発において、工数やコストの面から開発規模を見積もることは重要である。以下の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア CoBRA法とは、LOC法で算出されたソフトウェア規模に補正係数を掛け合わせて開発規模を見積もる方法である。
- イ COCOMO法とは、データの構造や流れに着目してソフトウェアの開発規模を見積もる方法である。
- ウ COSMIC法とは、開発工数が開発規模に比例すると仮定するとともに、さまざまな変動要因によって工数増加が発生することを加味して開発規模を見積もる方法である。
- エ ファンクションポイント法とは、開発するシステムの入力や出力などの機能を抽出し、それぞれの難易度や複雑さに応じて重み付けし点数化することによって、ソフトウェアの開発規模を見積もる方法である。
- オ 類推法とは、WBSで洗い出された作業単位ごとに工数を見積もり、この合計をシステム全体の工数と考えて開発規模を見積もる方法である。

⑦ 経営情報システム

【総評】

令和6年度の本試験は、近年の設問数と同じ25問であり、そのすべてが昨年と同様5肢択一の問題であった。時事的な出題が多くなったため、昨年よりも難易度が高くなったと思われる。

出題形式は、空欄補充問題2問（昨年3問）、用語と説明の組み合わせ1問（昨年3問）、計算問題4問（昨年4問）など多岐にわたっているが、正しいものの組み合わせ（昨年8問）を選ぶ出題形式が今年はなくなり、代わりにすべての肢に正誤を判断する形式が出題された（8問）。

出題の分野別内訳を見ると、概ね第1問～第9問が情報通信技術に関する基礎的知識、第10問～第24問が経営情報管理の出題である。特徴を列举すると、次のとおりである。

- ①時事問題・最新の内容の出題がある（第10問のDX推進、第17問のパスワードレス認証、第24問の生成AIなど）。
- ②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている。
- ③過去問題の類似問題も出題されている（第1問のタッチパネル、第21問のEVMなど）。

経営情報システムは、難易度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

（情報通信技術に関する基礎的知識）

第3問（オブジェクト指向プログラミング）、第7問（正規化）、第9問（通信プロトコル）などは正解したい問題である。

（経営情報管理）

第16問（システム開発・ソフトウェア開発）、第20問（通信回線の信頼度）、第23問（予測モデルの性能評価）などは正解したい問題である。また、第13問（キャッシュレス決済）もできれば正解したい問題である。

以上